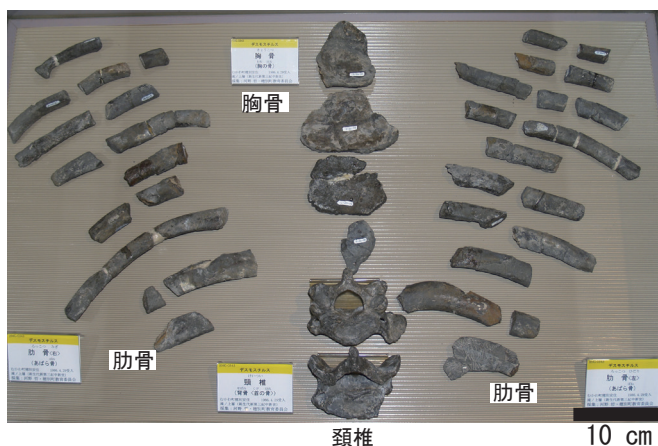
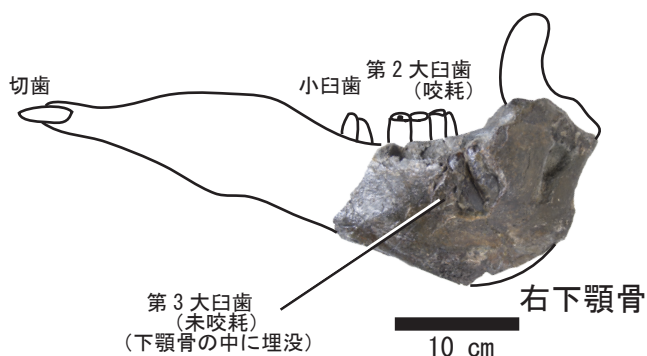


博物館収蔵資料の紹介 12

デスモスチルス穂別標本



発見 1978 年に地質調査をしていた河野哲氏ほか 4 名が発見し、その後穂別町教育委員会が中心となって発掘を行いました。

産出部位 下顎骨の一部、大臼歯、頸椎、胸骨、肋骨 **産出地・地質時代** 穂別安住・中新世滝の上層 (約 1,500 万年前の地層)

研究 1984 年と 1985 年の論文* で記載されました。すでにサハリン気屯標本などのデスモスチルスの全身骨格が産していたため、穂別標本から得られる新知見はそれほど多くありませんでしたが、保存良好な臼歯がまとまって産し、歯種を鑑定することができたことに意義があるとされています。

* 木村方一・赤松守雄, 1984. 北海道穂別町産デスモスチルスについて (第 1 報). 穂別町立博物館研究報告, 第 1 号, p. 11-23, 5pls.

木村方一, 1985. 北海道穂別町産デスモスチルスについて (第 2 報). 穂別町立博物館研究報告, 第 2 号, p. 51-61, 7pls.

デスモスチルスについて



穂別博物館のデスモスチルス展示説明



デスモスチルス歌登第三標本レプリカ
(穂別博物館展示資料)

デスモスチルスは絶滅した半海生あるいは海生の哺乳類で、約 1,500 万年前を中心に北太平洋沿岸に生息していたグループです。これまでにさまざまな復元が行われています。昔の復元の一つであるヒレがある復元案は受け入れられていませんが、最近でもその姿勢や、遊泳能力の優劣が議論されています。

柱を束ねたような臼歯の形が特徴的で、これがデスモスチルスという名の語源となっています。大臼歯は前方の使用（咬耗してる）の大臼歯を後方の骨の中に埋没している新しい大臼歯が押し出すような形で生え変わります。使用していない臼歯は咬耗しておらず、バナナの房のような形をしています。大臼歯は第1～第3大臼歯の順序で生え、左右上顎・下顎それぞれで1本ないし2本の大臼歯が同時に使用されます。こうした歯の交換様式は水平交換と呼ばれ、現生の哺乳類では長鼻目（ゾウなど）や海牛目（ジュゴン、マナティー）でも見られます。

デスモスチルスの全身骨格として、サハリンの気屯標本、北海道の歌登第一標本が非常に有名です。束柱目（デスモスチルスを含むグループ）の化石は北海道足寄町産のものが有名で、足寄動物化石博物館に立派な展示があります。 学芸員 西村智弘



穂別博物館・図書館

穂別地球体験館

穂別地球体験館庭の デスモスチルス 大臼歯オブジェ

穂別地球体験館の庭にはデスモスチルス大臼歯のオブジェがあります。座りやすいように咬耗した大臼歯のみが置かれています。

[アクセス]



開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小～高校生：100 円

大人 300 円

団体 / 小～高校生：50 円

大人 200 円

※団体は 10 人以上 ※小学生未満は無料

休館日

10 月

6 (月) 14 (火) 15 (水)

20 (月) 27 (月)

11 月

4 (火) 5 (水) 10 (月)

17 (月) 25 (火) 26 (水)

町民無料観覧日

11 月 3 日 (月・祝)
(文化の日)

11 月 23 日 (日)
(勤労感謝の日)